

ゆきづまる新たな公共交通。どうなる実証運行

市は北部地域に新たな公共交通を導入するため、地域懇談会を3か所で開催しました。しかし検討のための部会は、1年間開かれていません。いつ再開するのか、実証運行の目的も質しました。

市は「地域懇談会の意見では、バス停の位置は徒歩5分以内、乗り継ぎはしたくない、料金は1乗車500円以内が多数。新たな公共交通は70%が必要との回答だった」

「検討部会長の助言を受け、今後は2025年度の公共交通基礎調査（市民アンケート）からニーズを把握し、基本方針を示す段階で検討部会を開催する。実証運行は運行形態が決まらないため未定。導入が決まった場合は、運行事業者と協議し実証運行の時期を検討する」と答弁。新たな公共交通は、際限のない先送りの末、頓挫するおそれまで出てきました。

特別交付税 3,600万円の財源あり

現在、名鉄バス補助路線といまじいCARの維持に年間9,700万円の経費がかかっています。公共交通には特別交付税の財源措置があり、地域経済の活性化や医療費削減などの効果で経費は回収できます。前向きに実証運行を進めるよう求めました。

市は「特別交付税が2024年度、3,600万円交付された」と答弁。公共交通に財源措置があることを認めました。

学童保育の民間委託で料金値上げの恐れ

学童保育は、支援員と施設の不足が重なり4年連続で待機児童が発生。行き詰まっています。

直営で責任もち、詰め込み解消を

民間に委託しようとしている市の方針を批判し、民間委託すれば経費は直営の今より大幅に増え学童保育料の値上げにつながることを、民間業者は委託費からできるだけ多くの儲けを出そうとするため、経営状況の把握や人員配置を守っているかなど運営の監視が難しいことなど問題が多いことを指摘しました。

保護者にしわ寄せするのか

市は「民間委託すると、年間2億1千万円かかる見通し」（2024年度決算では1億3千万円でした）「物価高騰の折、委託しても委託しなくても、学童保育料を値上げする必要がある」「支援員の人



6月定例会の一般質問で取り上げた、危険な生活道路の交差点に路面標示、通学路にグリーンベルトが施されました。



日本共産党市議
かけの
掛布まち子
電話 53-7727

＊バス路線維持経費の8割が特別交付税で補てんされていましたが、数年前から財政力を反映させた計算式に変更、減額になりました。

生活保護基準の見直しを

国が2013年から2015年に生活保護支給額を大幅に引き下げたことに對し違法との最高裁判決が出ましたが、その後の改定でも基準は低く抑えられたままです。

困窮世帯であっても生活保護が受けられていないこと、特に暑かった今年の夏、電気代を心配しエアコンがありがたながら動かさなかった家庭が多いことを示し、生活保護費の夏季加算が必要と訴えました。

電気代とエアコン設置に補助を

市内でもエアコンを動かさず熱中症で救急搬送された例が17件あったことがわかりました。命に係わることで、市でエアコン設置や電気代の補助をすべきではないかと迫りましたが、社会福祉協議会の生活福祉支援金の貸し付けや生活困窮者の自立支援制度を紹介する答弁に留まりました。

外国人優遇の実態はありません

外国人が生活保護で優遇されているとの噂もあるため、実態を質しました。

市全体で生活保護受給者は増加していますが、外国人受給者は減少しており、外国人が優遇されている実態は全くなかったことが確認できました



好評でした 学童保育、夏休みの弁当

古南学童保育所では、今年の夏休み期間の20日間、試験的に希望児童に業者の弁当が手配されました。1食400円。注文や支払いは、保護者・業者間で行い、市の関与はありませんでした。

学童保育利用のうち37%の児童が注文、おおむね好評とのことでした。

しかし業者の対応能力には限界があります。市は、子どもや保護者、支援員にアンケートを行い、今後の対応を考える方針です。



移動図書館の導入を

6月定例会では、公共交通が不足している江南市で、誰もが読書できる環境を作るために移動図書館が必要と、導入について質しました。

「図書館システムの新たな構築や人件費、図書費など多額の費用がかかり、調査研究中」という答弁でした。

＊9月定例会では、2026年度以降の次期指定管理者として、移動図書館の導入を提案したTRC（現在と同じ）が選定されました。

当面は、市内の拠点施設やイベント会場に移動図書館車が出向き、図書館利用のPRを行う運用となります。移動図書館車で本の貸し出しができるようになるのは、かなり先になります。

